

日の暮れるのがどんどん早くなります。なかなか夜も明けません。夜が長いとい
ろいろなことを思いめぐらす時間ができます。

人というのはそもそも首尾一貫している訳ではないのですが、一日の中でもおひさまの
出ている昼間と夜とでは、同じ自分なのにずいぶん違っているように感じます。

しっかり目覚めているときと、夢みたり・まどろんでいたり・眠っているときとでは、もっと
はっきりと違う生き方をしていることでしょう。

夜の長いこの季節に、昼と夜、または目覚めとまどろみの自分自身の姿を見つめ返し、
「人間よ 汝自身を知れ」という太古から投げかけに、少しでも向き合えればと思い
ました。

昼間は大人にとってはそれぞれの役割や立ち位置がありますから、マイペースの入でも
少なからず周囲の状況を捉えてやりとりをしたり、責任を果たさなければならぬでしょう。
例えば目で見たり聞いたりしたところに、すでにして確固とした現実があって、自分の都合
や思いでは変えることの出来ない、動かすことのできない世界があると、私たちは感じ
ています。それに従って生きざるを得ない…と思っています。

一方私たちの中には、私たち自身の内側の様子を感じたり、私たちを通して世界の意味を
受けとろうとする衝動があります。心は既存の世界にちっとも満足することができず、
自分が生かされていないと感じ、自問自答のやりとりをしたり、新しいシナリオを作っ
たり、心の舞台に様々なドラマを演出し続けています。まだ実現していない世界を、
どこかにいつの日か現われるであろう世界を、いつでもつもぎ出そうと夢みたり願って
います。

「ひとつところに ふたつの建物は建てられない」と感じる「昼の生き方」と、
「ひとつのところに 様々な建物を同時に思い描くことができる」という「夜の生き方」。

……
どちらもこの世を生きていくときに大切な二つの生きる姿なのかもしれませんが、一人ひとりが
「私」を実感して生きようとするのに、決して前者によって 自分自身を頭打ちしたり、息を
つもらせたりすべきではないはずです。

私たちの内なる思いが、いつでも外に向かう私たちを導き、支えていなくてははいけな
いでしょう。 実際たくさんの困難と不条理さの中で生きなければならないとしても、……
…… 一人ひとりの自我の輝き——たとえそれが小さな光であっても—— 宇宙を生み
だす力と同じものなのだ！ということを、しっかり感じていたいと思います。

一年の中で 最も夜の長い季節がやってきます。

クリスマスに、私たちは「一人ひとりの自我こそ、未来の社会を作る力である」ことを
思い、2000年前の出来事を今の意味として引き受けたいと思います。

子どもたちの生きる指標となるべく、今年のしめくくりの月に、私が自らの意志を
確認することができますように！

園長 升光 泰雄